

やまに農産株式会社（和賀郡西和賀町）

経営概要：水稲、わらび、カシス等を約22ha栽培。
わらび観光農園、ジャムの加工を行っている。

[6次産業化総合化事業計画について]

テーマ：「西わらび」「カシス」を活用した新商品の開発・販売と有用植物園の整備

事業概要：畑で栽培しているわらびの根茎から取り出したでんぷん粉を菓子業者に販売するとともに、でんぷん粉を利用した加工食品及びカシスを原材料とした加工食品を開発する。また、有用植物園を整備し、苗販売やお茶、入浴剤づくり体験にも取り組む。



①取組の経緯

- 地元である西和賀町では、かつてはリンドウやユリの産地であったが、高齢化や人口減少が進み、手のかかるリンドウやユリの生産が難しくなっていた。
- 収穫の際に人手はいるが、機械等の諸経費の負担が少なく、かつ、継続的に収穫が可能であるカシスの生産に取り組むことにより、交流人口を増やし、町の活性化をしたいと考えた。
- また、これまで地域の山から採取していた「西わらび」を畑で栽培し、体験農園化することにより、地域の観光交流、町の活性化に貢献したいと考えていた。
- そこで地元で採れていた「西わらび」を使った商品の開発に加え、カシスを使った商品開発を行う6次産業化総合化事業計画を策定。平成24年5月に認定を受ける。

②課題

- 西わらびについては計画認定後に補助金を活用し、わらびでんぷん粉の加工場を建設。でんぷん粉の売上は順調に推移している。
- 一方で、カシスジュースは売上が中々伸びずにおり、商品の見せ方やPR方法に加えて、商品自体についても改良する必要性を感じた。

③課題解決の方法

- 町役場を通じて6次産業化プランナーに相談。
- 販売面で苦戦していたカシスジュースは、酸味と独特の香りがあるので、これを飲みやすく改良した方が良いというアドバイスを受け、オレンジ、リンゴとのミックスジュースを開発するに至った。
- 併せて、商品の魅力、特性を効果的に伝えるラベルについてもアドバイスを受けた。



④取組の効果

- 総合化事業計画の認定を受けたのち、取材や研修の申し込みが増加。
- わらびでんぷん粉を安定的に製造できるようになったおかげで、農商工連携ファンドを活用して町内の菓子業者と連携し、新たな餅菓子を開発するに至った。
- 「カシス」を使用したミックスジュースは県内の業者に製造を委託し、自ら販売する。今後は県内外の商談会等に積極的に参加し販路の拡大を図っていく。

⑤取組のポイント

- 気象や地域の風土に合致した農産物の生産
→地域で昔から山で採れていた「西わらび」を畑で計画的に生産できる体制を整備。
→継続的に収穫が可能な農産物であるカシスを生産するようになった。
- 町役場の制度活用
→町役場の制度を活用しプランナー等の専門家からの継続的な指導を受けることができる。